

二〇二〇年八月一日（参加者二一名）

黙礼す日傘の似合ふ老紳士	うつぎ
畳むとき日傘吐息のごと熱気	たか子
そこまでと日傘持たぬを悔いにけり	わかば
眠れぬと言ひつつ寝息熱帯夜	宏 虎
渡月橋日傘を肩にモデル嬢	かかし
待ち合わせ日傘高々会釈かな	やよい
前をゆく祇園舞妓の日傘かな	小 袖
手庇の汝れに差し掛く白日傘	たか子
宮の鳩杜にくぐもる熱帯夜	よう子
白日傘傾げて笑顔見せにけり	わかば
写経堂座右にたたむ白日傘	みづき
喜寿の吾に男日傘のプレゼント	かかし
棚 経 の 女 住 職 白 日 傘	素 秀
絵日傘は母のお下がり雅号入り	わかば
熱帯夜吾は窓開け夫クラーラー	明日香
熱帯夜オンザロックのからと鳴り	もとこ

南座へ裾さばき美し白日傘	満 天
回覧板隣家といへど日傘さし	こすもす
ギブスの足寝返り幾度熱帯夜	やよい
急坂を休みやすみの日傘かな	素 秀
お泊まりの子らに蹴らるる熱帯夜	なつき
ぬくもりもろとも畳む日傘かな	満 天
川の字の崩れつばなし熱帯夜	うつぎ

WEB句会みのる選・二〇二〇年八月一日